



ニュースレター

SDM NEWS



交換留学生、留学経験者およびSDM教員で記念撮影

2

2013年 月号

行事予定

2013年3月2日(土)、16日(土)、23日(土)、30日(土)、4月13日(土) 10:00～18:00

PMP®資格受験対策講座

@日吉キャンパス協生館4階 階段教室2
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/03/02-174412.html>

要事前登録 有料

2013年3月4日(月) 13:00～17:10

第5回環境共生・安全システムデザインシンポジウム「脳と心と幸福を考える」

@日吉キャンパス協生館 藤原洋記念ホール
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/03/04-164319.html>

要事前登録 無料

2013年3月4日(月) 13:00～17:30

「宇宙インフラの利活用人材をどう育成するか」国際セミナー

@三田キャンパス 北館ホール
<http://babel.csis.u-tokyo.ac.jp/GESTISS/workshop.html>

事前登録不要 無料

2013年3月6日(水) 14:00～17:30

第3回慶應システムズスクールシステムを考える。

～モデルベースシステムズエンジニアリング・ワークショップ～

@日吉キャンパス 来往舎大会議室
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/03/06-224209.html>

要事前登録 有料

2013年3月6日(水) 19:00～21:00

「ダイアログとデザインの未来Vol.9 映画の未来」

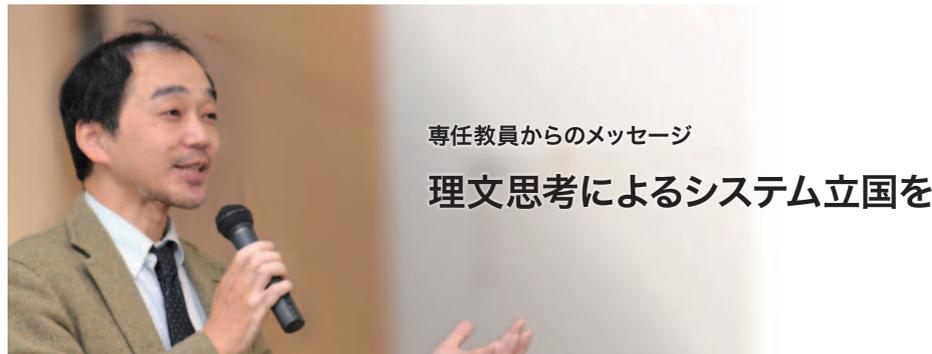
@日吉キャンパス 協生館C3S10教室
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/03/06-100302.html>

要事前登録 無料

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

http://www.keio.ac.jp/ja/event/201302/201302_index.html

通算51号 2013年2月発行



専任教員からのメッセージ

理文思考によるシステム立国を

理工系離れが言われるようになってから久しい。この問題は技術立国として成長してきた日本にとって、国力の低下にもつながる問題です。数学や物理等、理工系の学問は知識の積み重ねが必要のため、今勉強している内容が何の役に立つのかわからないというのも原因の一つのようです。これは大学での研究レベルでも同様で、要素技術を研究している学生が、その技術の位置づけや応用についてほとんど意識していないこともよく見られます。これはシステムとしての全体が見えていない状況です。知識の先行、技術の出口を見渡す習慣を身につけることで、勉強や研究に対する興味や面白さも変わってくるように思います。慶應SDMでは、もはや理系・文系の区別はせず、理文統合によるシステムデザインの教育を目指しています。全体を見渡せる理系思考、技術の詳細から応用・ビジネスまでを考える理文思考です。このような教育がシステム立国として、今後の日本の国力の増強に結びついていくことを願っています。

SDM研究科教授 小木哲朗

最近のニュース

TOPIC 1 慶應イノベティブデザインスクール(KiDS) ワークショップを開催

2013年1月6日に、慶應イノベティブデザインスクール(KiDS)の新春特別企画として、「利他思考で世界を変えるシステムデザインワークショップ-WCA (Wants Chain Analysis, 欲求連鎖分析)を用いたCRM (Cause Related Marketing)のデザイン法体験」が行われた。

CRMのデザインにWCAを用いた場合と用いない場合の効果の比較がおこなわれ、参加者はそれぞれに気づきを得ていた。全体を2グループに

分け、最初にブレインストーミングを行う場合と最初にWCAを用いる場合を比較したところ、最初にブレインストーミングを行うと議論が拡散する傾向があるのに対し、WCAの後にブレインストーミングを行うとシステムティックな社会理解につながっていた点が興味深かった。今後もKiDSでは慶應SDMの教育・研究成果を社会還元するとともに、それらのペリフィケーションの機会としても活用してゆく所存である。



ワークショップの様子



TOPIC 2 慶應SDM公開講座「システムを考える。～あらゆるものを俯瞰的に捉え、系統的に進めるためのワークショップ～」


ワークショップの様子

2013年より、新たに慶應システムズスクールを立ち上げ、第1回を1月13日(日)に、続いて2月3日(日)に第2回目を開催した。

第1回目は、技術システムの開発経験のあるエンジニアのみならず、実際のシステム開発経験のない学部生や社会人の方々にも、日常的なものを対象として「あらゆるものをシステムとして考える」とは何かを体感していただくためのワークショップとした。70名を越える方々にご参加いただき、大変好評であった。

第2回目では、エンジニアリングに携わる学部生から企業のエンジニアの方々70名を中心に、設計・開発の対象をシステムとして考えるシステムズエンジニアリングのアプローチを体感していただいた。俯瞰的に技術分野を横断した考え方を学ぶ良い機会になったとの高い評価をいただいた。

なお、第3回目となる3月6日(水)には、システムのモデル表現(SysML)を利用することで、協働してシステム開発を進めて行くアプローチを体感していただく予定である。

TOPIC 3 慶應SDM公開講座「ココロの刺し方～人の心に刺さる企画をつくろう～」開催


内田氏の講演の様子

自称サラリーマジシャン(サラリーマンをしながらマジシャンをしているという意)の内田伸哉氏により、2013年1月16日(水)に慶應SDM公開講座「ココロの刺し方～人の心に刺さる企画をつくろう～」が行われた。

内田氏は電通株式会社でコピーライターをする傍らマジシャンとしても活躍中。このため、両者の経験をふまえ、バズる(話題になり共感を得る)企画とは何か、について講演いただいた。話術巧みで、情報量が多く、ヒントにあふ

れた名講演であった。たとえば、YouTubeの再生数世界一になった日もあるという内田氏の「iPad Magic <<http://www.youtube.com/watch?v=cbl0r0CIT18>>」は、極めて戦略的に、いかに話題になるかをGoogleトレンドなどのデータを駆使して戦略的に考え、iPad発売時期に合わせて実践したものだという。慶應SDMにおいてユーザーニーズに合致した情報発信を行うためにも有意義な講演であった。



内田伸哉氏



発表風景

SDM研究科留学報告会兼留学説明会が2013年1月23日に日吉キャンパスで開催された。今年は蘭デルフト工科大学、スイス連邦工科大学、伊ミラノ工科大学、仏国立理工科大学院トゥールーズ校、米バデュー大学に加え、米マサチューセッツ工科大学からの交換留学生も参加し、SDM研究科の国際ネットワークの拡大と充実を感じさせる機会となった。

説明会では前野隆司委員長がSDM研究科を紹介した後、国際担当の中野冠教授が交換

留学プログラムについて説明を行った。続いて、海外から来日した留学生、およびSDM研究科からの派遣学生が交互に大学紹介を行い、それぞれの国の文化・習慣、都市の特徴、大学の強み、学習環境、研究環境などについて説明し、異文化に飛び込んだ新鮮な体験を写真を交えて面白く発表した。

特に、海外からの留学生はSDMで数多くのグループワークを経験し、日本人学生のワークスタイルから日本の特殊性を学び、日本人と

関係を築くコツを徐々に修得していったようである。また、多国籍・多文化の生活環境に飛び込んだ日本人学生も、自分の力で小さなトラブルを乗り越える度に、自分と他者との“違いを認識し、乗り越える”ことの大切さに気付いたとのことであった。

海外有名大学院と提携する慶應SDM研究科の交換留学プログラムは、グローバル人材に不可欠な多文化理解と世界一流の人的ネットワーク獲得の機会を提供している。



報告を聴く学生、教職員ら

ラボ・センター紹介

地域活性ラボ

(Regional Development and Vitalization Laboratory)

担当教員: 前野隆司教授、神武直彦准教授、白坂成功准教授、中嶋聞多特別招聘教授、林美香子特任教授、保井俊之特別招聘教授、他

<http://lab.sdm.keio.ac.jp/rdvl/>

目的

地域活性ラボでは、ゼミの開催や地域の視察等を企画・運営し、地域活性化に関連する学問の体系化と事例研究を行っています。具体的には、月に数回程度のゼミを行い、情報交換を行うとともに、地域活性学の体系化と発展を担うことを目的としています。また、地域活性学会地域活性化メソドロジー研究部会と連携して活動を行っています。他大学、国・地方、企業・事業者等の方々にも参加頂き、よりよい社会を構築するためのオープンで建設的な議論を行っています。ご興味のある方はぜひお気軽にご参加ください。

研究テーマの例

- 研究構造分析等を用いた地域活性化の研究分析とメソドロジー体系化研究
- 地域活性化のメカニズム研究、指標化・定量化方法論・方法の研究
- 情報技術、オープンデータ、経済学、行政学等に基づく地域活性化の分析
- 観光、産業振興、芸術振興、スポーツ振興、地域ブランド等の事例研究
- 農都共生、地域支援型農林水産業、商店街活性化などの事例研究
- 協働、協創、NPO、ソーシャルキャピタル等の方法論研究・事例研究
- その他、まちづくり、コミュニティ、地域活性化等に関連する研究



ラボメンバー集合写真



ラボ実施中の様子

空間位置情報サービスラボ

(Spatial Location-Based Service Laboratory)

担当教員: 春山真一郎教授、神武直彦准教授、石田剛朗特任助教、他

目的

世の中で生じている社会課題は、ヒトやモノの位置など空間的な要因と密接に結びついたものが多く、それらの社会課題を解決するにはその空間のコンテキストや位置情報を取得し、分析し、意思決定する必要があります。それらに関する研究を分野横断的に実施することが空間位置情報サービスラボの活動目的です。具体的には、国内外の企業や国家機関、大学と連携して先端研究を推進するとともに、空間位置情報サービスに関係する国際会議やシンポジウムの企画運営を行うことで、産業界の発展に寄与していきたいと考えています。ご興味のある方は是非ご連絡の程、宜しくお願致します。

活動の事例

- 視覚障害者向けのガイドシステムなど空間位置情報アプリケーションの研究
- ヒトやモノの位置に応じた災害時緊急メッセージ配信システムの国際プロジェクト
- 公共空間における最適照明、最適空調のためのセンサシステムの研究
- 可視光通信技術やIMES (Indoor Messaging System)、自己位置推定法による屋内外シームレスな測位技術の研究
- Location Business Japan やAsia Oceania Regional Workshop on GNSSの企画運営
- MITやパデュー大学、デルフト工科大学、RIMES (アフリカ・アジア地域自然災害防災総合機関) などの共同研究や学生交換



RIMES (アフリカ・アジア地域自然災害防災総合機関)との連携調整



視覚障害者向け可視光ナビゲーションシステムの実証



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management